

---

# 電話 ~日記外伝~

燐光蘭歌

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

電話～日記外伝～

### 【Zコード】

Z9500C

### 【作者名】

燐汎蘭歌

### 【あらすじ】

ある日の夜、一人の少年の電話がなる。それは後輩からの相談の電話だった。今書いている日記の10年前のお話です。武藤に宮野がある夜電話をして相談をする

「？？？富野さんだ・・・」

夜もふけ始めた頃、僕の携帯電話がなる

「もしもし？」

『・・・・あの、富野です。えっと・・・武藤先輩に相談があつて・  
・』

「良いけど、どうしたの？」

電話の相手は部活の後輩の富野さん。何か大きな問題なのがいつも  
より声が沈んでいる。

側に妹がいるのでグランダに出る。

『実は、もうわたしは仮引退なんですけど3年が引退した瞬間、1、  
2年生がまじめに練習していないみたいで・・・それに、同じパー  
ートの後輩なんですけど副部長でパートリーダーがまじめにやつて  
ないって話もあって・・・京太・・・部長もお手上げなんです・・・  
それでどうしたら良いかなって』

「どうしたらいいですか？？」

『仮引退したからあまり口出しないほうがいいのかどうかと思つて・  
・』

僕も去年経験した。けど後輩が練習をしてないと聞いた時に僕は何

も言わず様子を見るほうを選んだ

けど、今回は副部長だし……少し考えつつ空を見上げると綺麗な満月が浮んでいた。

「うーん……先輩離れする時期もあるんだけど……副部長でパーティーリーダーがやつていのは返つてしかつたほうが良いかもしね。そういうとできるのは君だけなんだから」

僕は浮んでいる円を見ながら答える。電話に向ひでも暫く沈黙。

『…………そりでしようか?』

「まあ、最終決定は君がしなよ。叱るんだつたら、しつかりやらないとね。練習しないんだつたらそれなりに反抗心もあるはずだから」

『そうですね……でも暫く様子見ます。まだはつきりした証拠もないし、京太も何とかしてみますって言つてましたから』

「うん、様子見も良いかもね。小暮部長に期待しよう。上手くいけばこの先部活は安泰だし」

『……上手くいけばいいんですけど……でも、小暮に掛けます。じゃあ、もう遅いんで切りますね。あ、相談に乗ってくれてありがとうございます』

「ううん。また相談があればいつでもどうぞ」

『はい。では』

そう言つて富野さんは電話を切つた。僕は携帯を閉じて、暫く円を見つめ、

「果たしてどうなるかな。小暮君はしつかりしてるとおはしつかりしてるんだけ?」

独り言に聞こえない独り言を言い、また円を見つめる。月明かりを見つめながら。

「兄さん、早く中に入れつて。風邪引くよ」

「判つた」

妹に呼ばれ、部屋の中に入る。

電気の消えた部屋の中、部屋に入つても円は僕の事を照らしていた。

私は電話を切る。

そして電話している間ずっといた自分の部屋の窓の縁から体を出して月を見上げる。

体を出すと言うか、縁に座り足を外に投げ出す。

窓際は月明かりでほのかに明るかつた。

「小暮次第……か……賭けてみよつと」

独り言に聞こえない声で独り言を言って、月を見続ける私の事も月はほのかに照らしていた。

月は平等に2人を照らしていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9500c/>

---

電話 ~日記外伝~

2011年1月16日04時13分発行